

第 11 交通政策審議会陸上交通分科会自動車部会
議事概要

日 時：令和 8 年 2 月 13 日（金）10:00～12:00

場 所：合同庁舎 3 号館 8 階特別会議室

出席者：（対面）塩路座長、池之谷委員、山内委員

（WEB）大井委員、清水委員、武内委員、林委員（五十音順）

概 要

事務局によるこれまでの取組みの概要の説明、先行トライアル実施事業者による先行トライアルの実施結果についての報告後、事務局より先行トライアルの実施結果を踏まえた今後の進め方について説明した。各委員より以下の発言があった。

○持続的に日本版ライドシェアを実施していくためには、売上げ等の収益性やドライバーの確保の方法等の継続性が課題になってくるのではないかな。

○まだ先行トライアルのサンプル数は少ないため今後の進め方については判断がつかない。もう少し実証実験を重ねて、サンプルをもう少し増やしたうえで協議をしていくほうが良いのではないかな。

○現状はサンプル数も少なく十分な評価ができる段階ではない。また、多様な取組みを評価する際には、マッチング率のような一律の指標を設定するのは適切ではなく、事案毎に評価することになろう。さらに、バス・鉄道事業者がやる日本版ライドシェアの形態としては、様々な進め方があるということを広く周知することが大事なのではないかな。

○バスやタクシーといった公共交通と公共ライドシェアや日本版ライドシェア、許可を要しない輸送などとの線引きが曖昧になってきているところがあるので、今後整理すべきではないかな。

○評価について一律の指標などをつくるのはなかなか難しいと思うが、全体的な課題や想定される成果を分かりやすく整理するといったことだけでも非常に重要であると思う。また、特に早朝においてタクシーが足りず、地域住民や訪問者が移動を諦めるということは、地域経済の低下等につながり、喫緊の課題だと考える。

○交通空白を解消するためにはいろいろなアプローチをする必要があると考えており、バス・鉄道事業者が日本版ライドシェアに参画できる制度は必要であると思う。なお、参画までに時間がかかっているように見受けられたので、何がボトルネックだったのかをモニタリングなどを通して明らかにし、改善につなげられれば良い。

○先行トライアル実施にあたって収益性や持続可能性については大変難しいことがわかったが、こうしたモデルケースを通じて、働き方の選択肢が増えること、予約の

取り方、送迎ポイントの柔軟性など、様々な視点が見えたことは良かったのではない
か。

○大都市部においても地域公共交通の利便性については偏りがあり、今後その利便性
向上が必須になる。また、日本版ライドシェアの導入にあたって、地域公共交通会議
での協議要件を設ける場合は、地域の実情に合わせて配慮する必要があるのではない
か。

以上